

会員のページ

★和名の表記について（前号本欄を受けて）

日本語の表記については、昭和61年7月1日 内閣告示第1号の「現代仮名遣い」が基準となる。これによると「じ」、「ず」を用いるのを本則とすることになっている。ただし、次のような語は「ぢ」、「づ」を用いるとして、同音連呼の場合：つづり（綴り）、二語の場合：はなぢ（鼻血）、みかづき（三日月）などを例示している。

また、生物の名前は仮名書きにすることになっている。このため、生物名は記号として本則に沿って表記することを原則と考えている。この考えは瀬川「原色日本海藻図鑑」の編集のお手伝いをしたときから一貫しており、「新日本海藻誌」、「日本産海藻目録」を通じて一般化されるように心がけてきた。

ちなみに、岩波国語辞典をはじめ、他の出版社の国語辞典も例外なく「もずく」が見出し語になっている。（吉田忠生）

★民俗藻類学者 濱田 仁先生に質問

編集長様 濱田先生にお尋ねしたいことがあってお便りいたします。

先日出雲へ旅した折、出雲大社で興味深いものを目にしました。本殿裏手の小さな素鷲社（祭神は素戔嗚尊）の床下根太部分に、両脇と後ろの何箇所か海藻が置かれており、後ろに置かれた海藻の上には注連縄が横たえられておりました。

海藻の種類はホンダワラの仲間や緑藻、テングサなども見受けられました。本殿自体の床下部分は見ることができませんが、もともと海藻とは緑の深い土地柄ですし、他にも海藻を神饌とする社がいくつかあるようです。出雲＝厳藻由来説を裏付ける状況証拠のようで大変面白いと思いました。

素鷲社自体には海藻を奉る祭祀はありません。これは一体何を意味するものなのでしょうか。（木村光子）

★市民セミナー（札幌）

北大総合博物館では、一般市民を対象に毎月2回の土曜セミナーを開催しています。8月25日の第178回は、小亀一弘さん（北大理学研究院准教授）に「褐藻カヤモノリ科の系統と分類」と題してご講演いただきました。藻類関係者以外は聞いたこともないであろうカヤモノリ科を対象にした、複雑な褐藻の生活史や分子系統をふまえた分類の話でしたが、聴衆の多くは系統分類学や藻類学の奥深さを実感してくれたようで、なかなか好評でした。こういったことの積み重ねを通じて、少しずつでも藻類がメジャーな存在になっていけばと思った次第です。（阿部剛史）

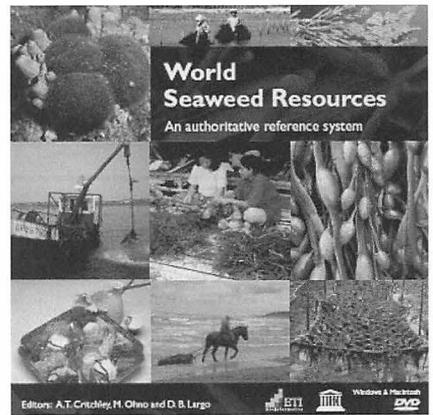


★新刊 DVD

タイトル：World Seaweed Resources—世界の海藻資源—
編集：Alan T. Critchley, Masao Ohno, Danilo B. Largo
発行：ETI Bioinformatics（英国）
価格：3,500円（送料込み）

申し込み先：大野正夫 E-mail: moseaweed@yahoo.co.jp

このDVDは、1998年に日本の国際協力事業団から、「Seaweed Resources of the World」（431頁）のタイトルで刊行された本を元に、ユネスコやdegussa社から基金を得てDVD版にしたものです。さらにモロッコとロシアが新たに収録され、ほとんどの海藻資源国が網羅された42編（国）の著作が主要な部分になっています。多くの著者がDVD版にあたって書き直して、挿入されている写真の多くがカラーになっています。写真の総数は1,859枚で、そのほかに地図91枚、図189枚、表257枚が収録されています。有用海藻の論文、海藻資源のビデオなども収録され、海藻資源の基礎資料として貴重です。（大野正夫）



★海藻標本のご寄贈を歓迎します（科博、TNS）

詳細は前号本欄をご覧ください。（北山太樹）

★ロゴマークを募集します

本欄「会員のページ」のロゴマーク（白い紙に描いたものもしくはEPSなどのデジタル画像）を編集部へお送りください。採用された方には粗品を進呈します。締切は12月31日。（編）